

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 関空立国デスティネーション化推進事業

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標 I : 安定した雇用を生み出す産業が元々なまち

関連のある数値目標: 観光入込客数 669万人/年(H30) → 715万人/年(R6)
観光消費額 47,554百万円/年(H30) → 52,025百万円/年(R6)

1 事業概要

事業目的	関西国際空港は2011年のLCC便の就航開始以降、総発着回数、総旅客数が2018年度では過去最高となり、インバウンド客をはじめとする来訪者が空港利用者数の伸びと比例して急増している。このような状況下において、空港に近いという地理的優位性と交通利便性の強みを活かし、夜間の消費喚起につなげるナイトタイムエコノミーの推進や新たな観光資源の創出等による観光客の目的地化を図るとともに、地域間連携の強化による周辺地域への出発地としての機能強化を図る。		
実施年度	R5	事業費(円)	1,300,000円 (うち交付金充当650,000円)
実施内容	タビマエ・タビナカでの泉佐野市や和歌山市、紀の川市のインバウンド等の嗜好に合わせた情報をWEB上で発信することで、目的地として選定してもらい、地域での消費喚起による経済循環を作り上げる。 【和歌山市】 インバウンド客の獲得に向けて、観光施設や飲食店情報、モデルコース等、旅行者の需要に応じた情報発信などにより観光誘客を図る。 (R5主な実施事業) 【インバウンド誘客促進事業】 ・観光情報発信事業		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値※	目標値(上段)				実績値(下段)			
		R2	R3	R4	R5				
①市内宿泊施設のインバウンド宿泊者数(単位:人) ※泉佐野市、和歌山市、紀の川市の合計	1,040,000	1,165,000	1,295,000	1,435,000	1,631,000				
		198,000	62,315	170,006	794,389				
②(仮称)りんくう野外文化音楽堂の利用者数(単位:人)	0	0	500	3,500	10,000				
		0	2,696	36,513	75,894				
③ガストロノミーツーリズムの利用者数(単位:人)	0	100	350	750	1,350				
		0	0	518	415				
④当該事業による消費効果額(単位:千円)	0	320,000	660,000	1,120,000	1,816,000				
		250,000	160,000	300,000	600,000				

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取組みとしても前進・改善したとは言えないような場合) E: KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	C 事業期間内において新型コロナウイルスの流行によりインバウンドが激減したことで大部分のKPIを達成することができなかったものの、一部KPIは目標値を達成しており、また目標値を達成できなかったKPIについても前年度から増加していることから本事業は地方創生に効果があったと言える。

4 行政評価委員会による評価

評価	意見(今後の方向性や改善策等)
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が5月までである中、情報発信に尽くされた点は評価したい。 ・インバウンドに対して積極的な集客を期待できるシステムが構築されている。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトを作ったのは悪いことではないが、具体的な連携や、ニーズ、ターゲットの明確化がされていない。 ・他市へリンクしないウェブサイトはもったいない。個別でやるのではなく、広域で他市と連携し、相乗効果を図っていただきたい。 ・これからの目標達成に向けて、リアルタイムで指標などが分かるようなデータシステム化が求められるのではないか。 ・コロナ禍が終わった後、令和5年6月以降の活動内容を書いてほしかった。 ・各市ごとに数値が分けできればベストだと感じる。 <p>【その他意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITなどを駆使して、幅広く広めていけたら色々な経済効果が生まれるのでは。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 まちなか活力再生と市民総活躍のまちづくり

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
基本目標Ⅳ:誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
関連のある数値目標:まちなか居住人口の比率 8.84%(H30)→ 9.24%(R6) まちなみの美しさに対する市民満足度 24.6%(R1)→ 25%(R6)

1 事業概要

事業目的	<p>和歌山市駅から和歌山城を中心としたエリアでは、キーノ和歌山や商店街などの商業施設、こども科学館や博物館などの公共施設、和歌山城を集客拠点とし、国民文化祭開催のタイミングと合わせて市内外から多くの人を集め夜間を含めた全体の回遊性を高めながら、多世代の交流や滞在時間の延長と消費を促すことができる仕組みを構築する。また、郊外の地域拠点において、住民が主体となり、地域の特色を生かしたまちづくりを推進し、市街地での取組と有機的に結びつけ、まちの持続的な発展につなげる。</p> <p>そしてこれらの取組について、若者をメインとした地域住民が一丸となって、民間と連携し市全体の魅力の向上やPR活動、賑わいづくりに自主的かつ持続的に取り組んでいくことができるまちづくりを目指す。将来的には、若者の地元定着につなげていく。</p>		
実施年度	R5	事業費(円)	99,207,403円 (うち交付金充当44,378,569円)
実施内容	<p>①地域と連携し新しい生活様式に対応した商店街の活性化 商業団体や個店等が商店街の魅力を発信するために行う事業や夜間の賑わいの創出が見込まれる事業に対し支援を行う。また、商店街の空き店舗等を活用した新規出店にチャレンジしやすい環境づくりや、若者と連携した若者目線による商店街の活性化を図る。</p> <p>②市街地の誘客性の向上 市のシンボルである和歌山城や、市街地にある拠点の誘客性を高め、拠点利用者を増加させることにより夜間も含めた市街地の流動人口の増加と拠点間の回遊を促進する。</p> <p>③地域拠点の機能強化 郊外にある地域拠点を地域住民や地域の団体等民間主導によるまちづくりを推進し、地域の高齢化や人口減少等の地域課題を解決し地域の特色を活かした地域拠点の形成により人口流入を図る。</p> <p>(R5主な実施事業) 【地域と連携し新しい生活様式に対応した商店街の活性化】 ・空き家・空き店舗を活用したお試し出店 【市街地の誘客性の向上】 ・和歌山城での体験事業・情報発信の強化 【地域拠点の機能強化】 ・公共空間の賑わいを創出するための取組や、個性豊かな地域づくりにつながる取組を行う団体に対する補助</p>		

2 KPI(重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値※	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
①まちなか流動人口(単位:人)	34,850	34,950 38,191	35,220 38,308	36,220 38,641		
②まちなかの空家・空き店舗を活用したリノベーション件数(単位:件)	0	5 6	11 13	18 28		
③和歌山市駅の1日当たり乗降客数(単位:人)	16,455	16,555 12,714	16,670 14,373	16,785 15,352		
④地域住民によるまちづくり活動やふれあい活動に対する市民満足度(単位:%)	14.1	14.6 7.8	15.3 10.0	16.0 9.2		

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

		本事業終了後における事業効果
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	<p>商店街の活性化やまちなかでのイベントの開催により、「まちなか流動人口」、「まちなかの空家・空き店舗を活用したリノベーション件数」については継続的に増加しており、目標値を大幅に超えて達成することができた。</p> <p>また、「和歌山市駅の1日当たり乗降客数」と「地域住民によるまちづくり活動やふれあい活動に対する市民満足度」については目標値を下回ったものの、前者については順調に増加していることから、本事業は地方創生に相当程度効果があったと考える。</p>
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

4 行政評価委員会による評価

評価	意見(今後の方向性や改善策等)
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	<p style="text-align: center;">C</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リノベーションによる商店街の活性化は少しずつ進んでいるように感じる。持続性を重視して取組を進めていただきたい。 ・再開発についても、再開発準備組合をつくるだけで終わりではなく、このまま進めていただけたらと考える。 ・北ぶらくり丁商店街、空き店舗活用、市駅前南地区再開発など、確かに活用されていることが分かり、評価できる。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な取組については、どのように制度化していくのか、やや不明確であった。 ・現在の投資から未来につながるイメージをもった企画立案が必要。単発になりかねない。 ・市民満足度も少し下がっていることから、できれば右肩上がりでも推移できればと思う。 ・空き店舗を開業した後のフォローやチェックが薄い。 <p>【その他意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民総活躍」というのなら、事業者にプロポーザルで任せちゃうのはよくない。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 わかやましゲートウェイプロジェクト～食と農水産と観光の融合～

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

関連のある数値目標:観光入込客数 669万人(H30)→ 715万人(R6)

観光消費額 47,554百万円(H30)→ 52,025百万円(R6)

1 事業概要

事業目的	四季の郷公園に本市初の道の駅(令和2年7月)、中央卸売市場の総合食品センター棟「わかやままるしゅ」(令和2年7月)の農・水産物の発信拠点がオープンした。これら2つの拠点に加え、新市民図書館(令和2年6月オープン)を含めた南海和歌山市駅前再開発、和歌山城ホール整備(令和3年7月)などの本市の新たな拠点と南海和歌山市駅周辺の市街地を観光や物流の玄関口として最大限に活用する。加えて農業のブランド化・高付加価値化を促進することで持続可能で未来に希望の持てる農業を育成し、観光と食(農業)の効果的な融合により、観光客の周遊や観光消費の拡大を推進する。		
実施年度	R5	事業費(円)	180,439,941円 (うち交付金充当65,177,897円)
実施内容	<p>令和2年7月に本市初となる道の駅が四季の郷公園にオープン(本市東部)、令和2年7月に中央卸売市場に総合食品センター棟がオープン(本市西部)、市民図書館の再整備等や和歌山市駅前再開発や和歌山城ホール整備が進んでいる(本市中心市街地)。本市の新たな拠点を活用し、地場産業と観光を融合させた施策を展開し、観光消費額の拡大を図る。</p> <p>(R5主な実施事業)</p> <p>【和歌山市を売り出す(効果的なプロモーション)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光情報発信事業 <p>【和歌山市へ招く(体験型観光コンテンツの充実)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地周遊型スポーツイベント <p>【和歌山市でもてなす(地域資源を活用したおもてなし体制の充実)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜等産地強化事業 		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値※	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
①観光消費額(単位:百万円)	47,554	23,777 34,702	33,337 41,419	47,787 46,606		
②年間宿泊客数(単位:千人泊)	959	479 744	672 873	982 993		
③四季の郷公園年間来場者数(単位:万人)	8	8 17	21.3 23	28.5 18		
④中央卸売市場食品センター棟の年間売上額(百万円)	60	61 52	63 58	66 63		

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
<p>A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)</p> <p>B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p> <p>C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)</p> <p>D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)</p> <p>E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)</p>	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p> <p>コロナ禍の影響が残っていることもあり大部分のKPIが目標値未達成だったものの、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げなどにより、観光需要が戻りつつあることからKPIは全体的に改善しており、コロナ禍前の基準値を上回っているものもあることから地方創生に効果があったと言える。</p>

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)		
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多分野に渡り、一つ一つの事業として丁寧に企画実施されており、実質的效果も得られていると感じる。 ・四季の郷公園の利用は少しずつ多くなっていると感じる。
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	C	<p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地の活用に関して、農林水産課をはじめ、ニーズを捉えきれていない現状は理解できているようなので、そこから一歩行動へ移っていただきたい。 ・遊休農地の効果的な活用に関する抜本的な政策が欲しい。 ・様々な施策を連携の上、事業の効果を高められたい。 ・今後「わかやままるしえ」の観光としての活用を考えるのであれば、更なる市民・観光客への開放をしていただきたい。
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ) 検証シート

事業名 オンライン手続の拡充による住民サービスの向上

1 事業概要

事業目的	行政手続を自宅にいながらいつでも行えるよう、PCやスマートフォンなどで電子申請ができる仕組の提供を目指す。これまで、本人確認が必要であったり、手数料等の支払が必要でオンライン化できなかった手続をマイナンバーカード等と連携した電子認証機能やオンライン決済機能を導入することでオンライン化していく。また、申請者と自治体をデジタルでつなぐ双方向のコミュニケーションを実現するため、申請後の通知等をオンラインで行うことで多くの手続のデジタル完結を目指す。		
実施年度	R5	事業費	2,250,943円 (うち交付金充当1,125,471円)
実施内容	令和4年度から本格導入している行政手続オンライン化支援サービスに、以下の機能を拡充した。 【電子認証機能】 申請時にマイナンバーカードによる本人確認や情報入力が可能となる 【オンライン決済機能】 手数料等の支払がオンライン上で実行できる 【デジタル窓口機能】 申請者情報の登録や申請中の手続の状況、申請履歴の確認のほか、申請者への電子通知の送付など行政と市民の双方向のコミュニケーションが可能となる		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	目標値(上段)				
	実績値(下段)				
	R5	R6	R7		
①マイナンバーカード認証を利用した手続に係るオンライン申請の割合(%)	3	10	15		
	0				
②オンライン決済を利用した手続に係るオンライン申請の割合(%)	3	10	15		
	0.07				
③オンライン申請の満足度(%)	50	60	70		
	91.2				

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C
B:本事業は事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は事業目的達成に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	
マイナンバーカード認証やオンライン決済を利用したオンライン申請の利用率については、担当部署との調整のため運用開始が年度後半にずれ込んだこともあり目標値には達しなかったが、これらの機能を活用したオンライン申請を始めることができた。従来から実施しているものも含めた本市のオンライン申請に対する満足度は高いことから、より多くの方に利用してもらえるよう、市民への周知を図るとともに、対象手続を拡充していく。	

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> •KPIの未達もあるが、オンライン申請を始めたことは評価ができ、今後更に効果が見えてくる事業である。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> •高齢者などデジタルへの対応が困難な方向への説明会などを増やし、より多くの方に利用いただけるよう取り組む必要がある。また、法人が活用できるようにしてほしい。 <p>【その他意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> •個人情報なので、より慎重に対応いただきたい。 •評価はBとするが、KPIが未達となっているものについては、達成に向け着実に進めていただきたい。
B:事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:事業目的達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとはいえないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ) 検証シート

事業名 デジタル技術による議会の見える化・伝わる化事業

1 事業概要

事業目的	市議会に対する市民の関心・理解を高めることを課題として、議会の見える化・伝わる化に取り組んでいるところであるが、本市議会は全国的に見てもデジタル化に遅れをとっており、デジタル技術を活用した議会改革「わかやまスマート市議会」を構想している。その第一歩として、本会議場にモニターを設置し、傍聴者及びネット中継視聴者に分かりやすい表示をすることで、市民の関心・理解の向上を図る。		
実施年度	R5	事業費	6,080481円 (うち交付金充当3,040,240円)
実施内容	本会議場(傍聴席、演壇、傍聴席付近、議長席)にモニターを設置し、会議の進行状況、発言者名、議場配付資料、市議会のPR動画等をワイヤレスシステムを使って表示した。また、表示した資料はインターネット議会中継においても表示した。		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	目標値(上段)				
	実績値(下段)				
	R5	R6	R7		
①本会議の年間傍聴者数(人)	200 324	240	280		
②本会議のインターネット中継アクセス数(1日あたり)(回)	120 124	140	160		
③モニター設置等に係る広報回数(回)	12 9	15	18		
④モニター設置についての満足度(%)	70.0 90.0	80.0	90.0		

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
<p>A:本事業は事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)</p> <p>B:本事業は事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p> <p>C:本事業は事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)</p> <p>D:本事業は事業目的達成に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)</p> <p>E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)</p>	<h1 style="font-size: 2em;">B</h1> <p>会議の進行状況や発言者名、議場配付資料等をモニターに表示することにより、議場で行われていることの把握が容易になり、傍聴者やインターネット視聴者の理解や関心を高め、KPI実績目標値を概ね達成することに寄与したと考えている。 モニター設置等に係る広報回数の目標値については、設置時期が2023年9月定例会からであり、6月の広報回数が含まれず未達成となったものの、今後も引き続き事業目的達成に向け、幅広い周知や、表示内容、レイアウト等の工夫に取り組んでいく。</p>

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPI数値も概ね達成されている。 ・議会の見える化は非常に大切であり、市政に対する関心を高めるために拡大してほしい。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は認知度が課題かと思われる。より多くの市民がアクセスできる環境を整備していただきたい。 ・ゆくゆくはネット採決、ペーパーレスを目指していただきたい。
B:事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:事業目的達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ) 検証シート

事業名 和歌山市民図書館のスマート化

1 事業概要

事業目的	和歌山市民図書館(本館、西分館)及び市内6か所に点在するコミュニティセンター図書室の運営に係るシステムについて、従来図書館利用券による貸出を行っていたものを、マイナンバーカード等の図書館利用券化や、「和歌山市民図書館アプリ」を導入することによりスマートフォンなどでも貸し出しを可能にするなど、図書館利用者の利便性と快適性を高めた図書館システムを導入する。		
実施年度	R5	事業費	176,102,300円 (うち交付金充当88,051,150円)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用券に加えて、マイナンバーカード・交通系ICカードによる図書の貸出を追加し、仕事帰りや買い物の途中などでも気軽に利用できるようにした。 ・「和歌山市民図書館アプリ」を導入し、利用券バーコードの表示、書籍検索、本の予約等、利用者にとって便利な機能をアプリに集約し、利便性を向上した。 ・手元のスマホ等での情報収集等や、テレワーク拠点としても活用できるようWi-Fi環境等を整備した。 		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	目標値(上段)				
	実績値(下段)				
	R5	R6	R7		
①マイナンバーカードによる図書館利用券登録者数(人)	50 7	3,000	5,000		
②図書館アプリダウンロード数(人)	50 344	8,000	15,000		
③交通系ICカードによる図書館利用券登録者数(人)	30 18	2,000	4,000		
④利用者の満足度(%)	80 92	90	100		

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B 和歌山市民図書館のスマート化の稼働日が2024年3月28日であり、2023年度の稼働期間が4日間のみだったことから、KPI実績に影響を与える期間が短く、目標値に達しなかった項目があったものの、稼働後4日間で、「図書館アプリダウンロード数」と「利用者の満足度」が期待を上回る結果であったことから、図書館利用者の利便性と快適性を高めることができたと考え、事業の成果が得られたと考えている。
B:本事業は事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は事業目的達成に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリを導入したことは評価でき、今後の来館者数の増加にもつながると考えられる。 ・図書館は、年齢・性別問わず憩いの場ともなる。DXも進めながら利用券も使用でき、案内も求められれば対応してくれるのは安心。安心・安全な場所づくりにつながられている。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者やデジタルが苦手な方に対し、より丁寧な説明をするなど、利用しやすい環境整備に努めていただきたい。 ・さらなる機能の拡充を図るとともに、非来館型サービス、電子書籍の導入も検討いただきたい。 ・認知度の向上に努められたい。
B:事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:事業目的達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 加太・和歌の浦の活性化による移住促進プロジェクト

「まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連」

基本目標Ⅰ: 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
基本目標Ⅱ: 住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
関連のある数値目標: 転入者数 8,775人/年(H30) → 9,300人/年(R6) 観光入込客数 669万人/年(H30) → 715万人/年(R6)

1 事業概要

事業目的	①友ヶ島など観光客誘客に大きな成果がでている市北西部に位置する加太エリアにおいては、豊かな自然を生かした観光やスポーツによる交流人口の増加を図るとともに、東京大学の研究所等と連携し、アート等によるブランディングを行い、ターゲットを定めて訴求し、関係人口を増加させ、二地域居住を含む移住・定住地として選ばれるエリアとなることを目指す。 ②2017年に文化庁より「絶景の宝庫和歌の浦」として日本遺産の認定を受けるなど、風光明媚な景観や歴史的な祭り・芸能など文化活動が盛んである市南西部の和歌の浦エリアにおいては、芸能・歴史を生かしたまちづくりによる交流人口の増加を図るとともに、地域に根差した産業である漁業について、観光施策と融合した取組を展開し、長期滞在型の観光エリアをめざすことで、域内消費の拡大や域内の良好な経済循環を図る。		
実施年度	R5	事業費(千円)	0円 (うち交付金充当0円)
実施内容	加太観光協会や漁協、自治会など地域の主要なメンバーで構成された加太まちづくり会社や和歌の浦における歴史的風致維持向上支援法人など地域団体が主体となり、民間事業者や地域住民との合意形成を図りながら、環境・アート・歴史を軸に地域資源のブランディング強化と、効果的なプロモーションを行い、加太・和歌の浦エリアの活性化や移住定住の促進を図る。		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値	目標値(上段)					
		実績値(下段)					
		H30	H31	R2	R3	R4	R5
①加太・和歌の浦エリアへの転入者数(単位:人)	214	219 194	231 199	251 194	274 172	299 212	303 245
②加太・和歌の浦エリアにおける空き家・空き店舗の活用件数(単位:件)	0	0 2	2 2	6 7	14 12	18 22	24 29
③加太・和歌の浦エリアへの観光客数(単位:千人)	3,962	4,012 4,142	4,062 4,327	4,152 2,934	4,242 2,996	4,262 3,580	4,292 3,831
④和歌の浦エリア漁業従事者数(単位:人)	151	156 137	161 134	171 136	186 134	196 130	206 132

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合) E: KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	E	本事業終了後における事業効果 令和5年度においては友ヶ島野奈浦棧橋架替工事を行う予定であったものの、台風による被害等により事業を実施することができなかったため、KPI達成状況に基づく評価が困難であると考えます。
--	---	--

デジタル田園都市国家構想進交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 和歌山の魅力資源を活用したインバウンド推進事業

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標 I : 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

関連のある数値目標: 観光入込客数: 669万人/年(H30)→715万人/年(R6)
観光消費額: 47,554百万円/年(H30)→52,025百万円/年(R6)

1 事業概要

事業目的	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減少した観光入込客のうち、国内からの誘客数は国内旅行の需要増加や国の観光支援策の効果もあり若干持ち直しつつあるが、コロナ禍からの回復の見通しが立たない中、ウイズコロナでの対応としてインバウンド向上に向けた、受入体制を整える必要がある。また、2025年に日本国際博覧会(大阪・関西万博)が開催される予定となっており、多くの外国人の来日が見込まれることから、コロナ禍においても安心して訪れることができるよう各種取り組みを行い、和歌山市の魅力である、歴史・文化・芸術・スポーツの魅力資源を活かしたインバウンド推進事業をすすめる。さらに、和歌山市内に点在する各々の魅力を一体的にプロモーション化しオールシーズン型ツーリズムや、ハイスペックなツーリズムを提供するなど、地域特有の資源を活用したコンテンツの創出・誘客の促進により、市内全体の周遊につなげ国内外からの誘客をはかるとともに、県内の中でも「観光地として選ばれるまち」を目指し、多世代交流、滞在時間延長と消費を促す仕組みを構築し、交流人口と市内消費の増加を目指す。		
実施年度	R5	事業費(千円)	85,861,375円 (うち交付金充当35,061,223円)
実施内容	①自然・歴史・文化等の磨き上げによる集客の促進 和歌山市の自然・歴史・文化の各々の資源を磨き上げると同時に市内全体の周遊につながる事業を行い、市内周遊のプロモーションを行うことで観光客の満足度と知名度高めることができ、より一層の観光誘客数の増加や市内での観光消費額の増加を図る。 ②大阪・関西万博を契機としたインバウンド等の回復 大阪・関西万博の開催に向け、外国に対してプロモーションやマーケティング活動を行うことで外国人の和歌山市に対する認知度向上を図るとともに、来訪した外国人観光客の満足度向上や市内の周遊促進を図る。 ①、②を実施することにより、コンテンツの創出、誘客の促進、旅行者の利便性向上及び周遊促進を図る。 (R5主な実施事業) 【①自然・歴史・文化等の磨き上げによる集客の促進】 ・サマータイムレンダ関連事業 ・日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」発信事業 【②大阪・関西万博を契機としたインバウンド等の回復】 ・インバウンド推進事業 ・海外向け物産・観光PR事業		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R5	R6	R7	R8	R9
①観光入込客数(単位:人)	4,652,524	4,682,524 5,302,129	4,712,524	4,742,524		
②外国人宿泊者数(単位:人)	2,292	4,035 66,410	5,778	7,521		
③友ヶ島入島者数(単位:人)	43,488	47,168 44,527	50,848	53,848		

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね効果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合) E: KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	B	本事業終了後における事業効果 KPI①、②は目標を大幅に上回ることができた。KPI③についても目標値を達成することができなかったものの、友ヶ島の桟橋の修繕工事等により入島できなかった期間があったことが主な要因であると考えられ、入島できない期間がなければ目標値を概ね達成できていたと予想されることから、本事業は地方創生に相当程度効果があったと考える。
--	----------	---

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 地域の魅力を活かしたサステナブルな移住定住促進プロジェクト

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標 I : 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
関連のある数値目標: まちなか居住人口の比率 8.84%(H30) → 9.24%(R6) まちなみの美しさに対する市民満足度 24.6%(R1) → 25%(R6)

1 事業概要

事業目的	日本全体で進む急速な少子高齢化、そして都市への人口流出により、本市においても人口減少及び少子高齢化の進行に伴う生産年齢人口の減少等が進んでおり、将来的な担い手不足・人手不足の深刻化や、新型コロナウイルス感染症の影響もたらした地域経済への影響等を背景として、さらなる地域経済の停滞が懸念されている。 市内の人口減少に歯止めをかけるため、移住支援体制の強化や、安心して就労でき、暮らすことのできる環境の整備、また、本市の「海」や「和歌山城」といった重要な地域資源を今後も活かしていくことで、人の流れを生み出し、誰もが住みやすく、住み続けたい、働きたいと思える持続可能な地域づくりの実現を目指す。		
実施年度	R5	事業費(千円)	35,289,132円 (うち交付金充当18,519,565円)
実施内容	①移住希望者とのマッチングの強化 SNSやHPなどを駆使した都市圏へのPRを行い、移住潜在層・検討層を対象とした交流イベントの開催や、本市での居住体験を実施するなど、効果的なシティプロモーションを行い、本市への移住に対するイメージや認知度の向上を図る。 ②将来的な移住・定住を見据えた働き手・担い手の確保と育成 市内・市外・オンライン等で女性を含む幅広い年齢層の方と企業間のマッチング強化を図る。また、本市の重要な資源である「海」や「和歌山城」等の魅力を更に磨き上げ、守りながら持続的に活用していくための取組に加え、次世代の担い手である地域の子供や学生に対し、これらの資源に対する学習や地域課題解決への取組を実施することで、持続可能な「住みたい」と選ばれるまちを目指す。 ③居心地の良いまちづくり 居心地がよく歩きたくなるまちなかの実現に向けた、公共空間や沿道建物、民間空地等も含めた一体的な都市空間デザインの形成を行う。その都市空間デザインを基に、道路整備等の公共施設整備を行い、沿道建物の修景整備や民間空地の活用を行う。また、地域特性に応じた交通ネットワークの構築について、住民・交通事業者と連携した取組のモデルを作成する。 (R5主な実施事業) 【①移住希望者とのマッチングの強化】 ・移住フェアへの出展 【②将来的な移住・定住を見据えた働き手・担い手の確保と育成】 ・和歌山就職応援プロジェクト事業 【③居心地の良いまちづくり】 ・公共空間利活用促進事業		

2 KPI(重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R5	R6	R7	R8	R9
①移住者数(単位:人)	140	150 170	160	170		
②移住関連事業活用者数(単位:人)	66	71 148	76	81		
③就職イベントの市外(県外)からの参加者数(単位:人)	0	150 45	180	200		

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B KPI③については目標値を達成できなかったものの、移住に関する相談支援等の実施によりKPI①、②については目標値を大きく上回ることができており、移住定住の促進につながっていることから本事業は地方創生に相当程度効果があったと考える。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

デジタル田園都市国家構想進交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 スマートシティの推進による持続的な産業まちづくり

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標 I : 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
関連のある数値目標: まちなか居住人口の比率 8.84%(H30) → 9.24%(R6) まちなみの美しさに対する市民満足度 24.6%(R1) → 25%(R6)

1 事業概要

事業目的	<p>本市では、市内総人口のピーク時と比べ、2020年時点で総人口が12%近く減少している。特に、年少人口が約2分の1になっているのに対し、老年人口は2.5倍以上となるなど、人口減少・高齢化の課題を抱えており、それに伴う経済規模の縮小や担い手・労働力不足、税収の減少等が不安視されている。加えて、昨今の新型コロナウイルス感染症の流行により、市民の生活は大きく変化し、中小企業・小規模事業者においては、経営基盤そのものに大きなダメージを受けた企業も多数ある。このように、社会環境が大きく変化していく中、本市がこれからも選ばれ、成長し続けるまちとなるためには、スマートシティを実現し、デジタル化による市民生活の利便性向上や安全安心なまちづくり、生産性向上による稼げるまちづくり等に取り組んでいく必要があることから、本市では、令和3年11月に「和歌山市スマートシティ推進プラットフォーム」を設立し、官民連携で具体的な検討を進めているところである。</p> <p>また、2025年度には大阪・関西万博の開催が予定されており、地域産品や市内事業者が持つ技術を国内外に発信することや世界の最先端技術に触れられる絶好の機会となっている。この機を逃さず、官民連携による先端技術の活用や地域ブランドの強化と効果的な発信を積極的に行うことで、本市の更なる成長につなげることが重要である。</p> <p>以上のとおりスマートシティ実現に向けた取組を推進し、本市が住みたい・働きたいまちとして選ばれ、持続的に成長できるまちを目指す。</p>		
実施年度	R5	事業費(千円)	26,089,494円 (うち交付金充当11,599,000円)
実施内容	<p>①スマートシティの実現に向けた市内DXの推進 和歌山市スマートシティ推進プラットフォームを活用し、地域事業者や市民向けに調査等を実施し、デジタル技術を活用して解決することが適当と考えられる課題やニーズの明確化を行う。また、先端技術の実装に向けた実証実験の段階から支援を行い、更なる市内DXの推進につなげる。また、経済団体や地域金融機関と連携し、セミナーや展示会等の開催を通じ、先端技術を用いたソリューションの紹介、デジタル技術活用に係る情報提供及び誘致企業を含む先端ICT関連企業とのマッチング機会を提供するとともに、市内事業者のDXを促進するため、生産性向上を図る設備投資、デジタルツールの導入等を支援する。</p> <p>②大阪・関西万博を見据えた新たな地場産品のセールス 展示会・見本市等のイベントにおいて、感染症拡大防止による中止の影響を受けないオンラインでの出展やECサイトの活用等、ウェブを活用した新たな形の販路開拓、自社製品の改良やPR等による販路開拓等について支援し、安定した稼げる仕組みをつくる。</p> <p>(R5主な実施事業) 【①スマートシティの実現に向けた市内DXの推進】 ・スマートシティ推進事業 【②大阪・関西万博を見据えた新たな地場産品のセールス】 ・販路開拓支援事業</p>		

2 KPI(重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R5	R6	R7	R8	R9
①製造品出荷額(単位:百万円)	1,357,133	1,357,233 未公表	1,357,383	1,357,583		
②設備投資等に取り組んだ結果、売上が向上した企業数(単位:件)	0	10	20	30		
③本事業を通じデジタル化に取り組んだ企業数(単位:件)	0	6 6	15	24		
④新たに商談成立した企業数(単位:件)	0	2 4	4	6		

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	<p>C</p> <p>KPI①、②については前年度の実績値が現時点において公表されておらず判断し難いものの、デジタル化の促進や販路開拓への支援を行うことによりKPI③、④の目標値を達成することができており、企業の生産性向上につながったことから本事業は地方創生に効果があったと考える。</p>
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 有吉佐和子邸復元整備計画

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅱ：住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
関連のある数値目標：日頃から芸術・文化活動を行い、又は鑑賞する機会を持っている市民の割合 49.3% (R1) →50% (R6) 観光客入込客数 669万人／年 (H30)→715万人／年 (R6)

1 事業概要

事業目的	まちなかの文化と観光施設を核として、和歌山市に愛着を持った市民や観光客が当該施設や近隣施設、商店街等でのイベント等を通じて、文化活動や交流を行い、当該施設を中心に回遊することにより、市民や観光客のまちなかでの滞在時間を延ばし、近隣の商店街等での域内の消費が活性化するまちなかを指す。		
実施年度	R3	事業費 (千円)	117,929,986円 (うち交付金充当55,844,658円)
実施内容	当該エリアに文化と観光の両面で核となる、本市出身で著名な作家である有吉佐和子氏の邸宅を復元する。有吉佐和子氏の文学を中心に置きながら、本市の近代文学や演劇、有吉佐和子氏が好んだ茶道など幅広い分野を横断的に扱い、市民や観光客の文学やまち歩きの拠点とする。		

2 K P I (重要業績評価指標) 目標及び実績

K P I	基準値	目標値 (上段)				
		実績値 (下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
①有吉佐和子邸入館者数(単位:人)	0	0	2,500	3,000	3,200	3,400
		0	27,558	24,553		
②有吉佐和子邸イベント来場者数(単位:人)	0	0	100	120	140	160
		0	1,541	1,243		
③まちなか流動人口 (RESAS休日月別平均) (単位:人)	34,850	34,950	35,150	35,450	35,750	36,050
		38,191	38,308	38,641		

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

		本事業終了後における事業効果
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	A	令和4年6月に、まちなかエリアに文化と観光の両面で核となる、有吉佐和子記念館を開館した。 資料の展示に加え、定期的なイベントの開催やカフェスペースの運営により、入館者数及びイベント入場者数は目標を大幅に上回った。 しかし、前年度と比較すると減少しており、また、まちなか流動人口はそれほど増加していないため、今後は広報の強化やイベント内容の見直し、周辺施設との連携により、文学ファンだけでなく、市民や観光客が気軽に訪れることができる施設として活用していくことで、まちなかの賑わい創出につなげていく。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 城前広場食べ歩き施設整備計画

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ：安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

関連のある数値目標：創業件数140件/年(H30)→140件/年 (R6)

1 事業概要

事業目的	本市のシンボルである和歌山城、本市の玄関口である南海和歌山市駅に整備された、再開発事業により移転した新市民図書館と飲食店やスーパーが入る複合施設「キノ和歌山」、和歌山城前に整備される「和歌山城ホール」や城前広場を訪れた観光客が、拠点間を歩いて回遊することで、和歌山市駅から和歌山城を中心としたまちなかエリアでの滞在時間を延ばし、エリア全体の消費活性化を目指す。		
実施年度	R3	事業費 (千円)	25,080,335円 (うち交付金充当11,286,476円)
実施内容	本市のシンボルである和歌山城前で行う、人々が集い憩う交流空間の創出のための城前広場整備に合わせて観光客が食べ歩きを楽しめる施設を3棟整備し、和歌山城や近隣の商店街、キノ和歌山などの施設を回遊する観光客の拠点とする。		

2 KPI (重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値	目標値 (上段)				
		実績値 (下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
①施設売上(単位:千円)	0	0	27,000	28,350	29,768	31,256
		8,357	10,671	9,489		
②施設利用者数(単位:人)	0	0	54,000	56,700	59,535	62,511
		10,455	12,945	11,908		
③まちなか流動人口 (RESAS休日月別平均) (単位:人)	34,850	34,950	35,150	35,450	35,750	36,050
		38,191	38,308	38,641		

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

		本事業終了後における事業効果
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	和歌山城前広場に3店舗ができたことにより、来客者だけでも延べ3万人の方にお越しいただいている。 城前広場でのイベント数も増加傾向なので、引続き、周辺施設との連携を図り、エリア全体の消費活性化を目指す。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		